

四月十日の衆院予算委員会で、下村文部科学相は現在の教科書検定制について見直しを検討すると表明し、安倍首相も同様の認識を示した。

平成十八年に教育基本法が改正され、国と郷土を愛することを教育目標とし、これを受けて学習指導要領も「我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる」とされた。しかし、平成二十三年に行われた教科書検定において文科省はこれらを全く無視し、反日・自虐史観に基づき書き換えを命じた。

文科省の検定官は自由社が提出した申請本に対し、元軍司令官を震え上がらせた鎌倉武士の勇猛果敢な戦いぶりや、秀吉にパレン追放令を余儀なくさせたキリスト教宣教師の煽動による神社や寺の破壊活動、さらに秀吉による朝鮮出兵の背景となったスペインの中国大陸征服計画などの史実を削除させ、近現代史では「近隣諸国条項」に則り、日本を「侵略国」とする歴史観への書き換えを強要した。

申請本では、「日露戦争後、日本は韓国に韓国統監府を置いて近代化を進めていった。一九一〇年（明治四十三年）、日本は武力を背景に韓国内の反対をおさえて、併合を断行した（韓国併合）。欧米列強はイギリスのインド、フランスのインドシナ、アメリカのフィリピンなど、自国の植民地支配を日本が承認するのと引きかえに、日本の韓国併合を承認した」としていたが、検定官はこれを「日露戦争後、日本は韓国統監府を置いて保護

にさせ、さらに「併合後におかれた朝鮮総督府は朝鮮で鉄道・灌漑の施設をつくるなどの開発を行い、土地調査を実施した。また、学校も開設し、日本語教育とともに、ハンブルグ文字を導入した教育を行った」の前後に、「植民地政策の一環として」と「これらの近代化によって、朝鮮の人々は日本への反感をさらに深めたを書き加えさせ、日韓併合の良い側面を一切否定させた。

満洲事変では、張作霖の爆殺を関東軍によるものとさせ、リットン調査団の「日本の行動を中国側の破壊活動に対する自衛行為と認める者もいた」を削除させた。

こうした史実の捏造が最も甚だしいのが、支那事変勃発の経緯である。申請本では、「一九三七（昭和十二年）七月七日夜、北京郊外の盧溝橋で、親日政権をつくるなどして、中国側との緊張が高まった。また、日本は、義和団事件のあと、他の列強諸国と同様に中国と結んだ条約によって、北京周辺に五千人の軍隊を

駐屯させていた。（改行）一九三七（昭和十二年）七月七日夜、北京郊外の盧溝橋で、演習していた日本軍に向けて何者かが発砲する事件がおき、翌日には、中国軍と戦闘状態になった（盧溝橋事件）。事件そのものは小規模で、現地解決がはかられたが、日本は派兵を決定し、中国側も動員令を発した。その後も戦闘は絶えず、翌月には、外国の権益が集中し各国の租界がある上海で、二人の日本人将兵が射殺される事件がおこり、中国軍が日本人居住区を包囲した。日本は日本人保護のため派兵した。こうして日中戦争（日本は当時「支那事変」とよんだ）が始まり、拡大した」に換えさせた。

中韓に媚びて祖国の歴史を捏造した文科省の大罪 歴史教科書検定の真相

日本兵法研究会会長 家村 和幸

国とし、近代化を進めていった。欧米列強はロシアの北満州・蒙古、イギリスのインド、フランスのインドシナ、アメリカのフィリピンなど、自国の植民地支配を日本が承認するのと引きかえに、日本による韓国の保護国化を承認した。一九一〇年（明治四十三年）、日本は武力を背景に韓国内の反対をおさえて、併合を断行した（韓国併合）」

の爆殺を関東軍によるものとさせ、リットン調査団の「日本の行動を中国側の破壊活動に対する自衛行為と認める者もいた」を削除させた。

こうした史実の捏造が最も甚だしいのが、支那事変勃発の経緯である。申請本では、「一九三七（昭和十二年）七月七日夜、北京郊外の盧溝橋で、親日政権をつくるなどして、中国側との緊張が高まった。また、日本は、義和団事件のあと、他の列強諸国と同様に中国と結んだ条約によって、北京周辺に五千人の軍隊を

駐屯させていた。（改行）一九三七（昭和十二年）七月七日夜、北京郊外の盧溝橋で、演習していた日本軍に向けて何者かが発砲する事件がおき、翌日には、中国軍と戦闘状態になった（盧溝橋事件）。事件そのものは小規模で、現地解決がはかられたが、日本は派兵を決定し、中国側も動員令を発した。その後も戦闘は絶えず、翌月には、外国の権益が集中し各国の租界がある上海で、二人の日本人将兵が射殺される事件がおこり、中国軍が日本人居住区を包囲した。日本は日本人保護のため派兵した。こうして日中戦争（日本は当時「支那事変」とよんだ）が始まり、拡大した」に換えさせた。

支那事変は「盧溝橋事件」の一月後に起きた「上海事変」に始まったという史実に反し、文科省検定官はその発端を「盧溝橋事件」に連続した一連の戦闘であるとして、「上海事変」の名称と事変当初の日支両軍の兵力差を削除させ、日本を「小規模で、現地解決がはかられた盧溝橋事件」を契機に派兵を決定するという軍事的合理性を無視して「侵略国」に仕立て上げたのである。

（元二等陸佐）